

梅雨前というのに 真夏のような暑さ 無理せず 元気に

1. 橋本大阪市長大阪都構想にノーを突きつけた 70 代のパワー まだまだ現役
2. 神戸 好奇心いっぱい さわやかな時節を楽しむ
3. 企業に責任を問えない日本 新聞でこんなことを知りました



6 月になりましたが、梅雨時前というよりも 真夏のような暑さ。無理せず お互いに 元気にと 田植えの終わった水が張られた田に新緑の山が映え、美しい季節になりました。いかがでしょうか 6 月の始まりというと毎年アジサイの花の写真をを送りするのですが、今年はクリンソウを。



初夏の風を吹き込む 可愛い花 クリンソウ

梅雨前のひととき 緑に包まれた湿地で 一株一株が真っ直ぐに自立し、

輪になって 幸福を積み重ね 派手さはないが 見る人をほっと一息 和ませる

真っ直ぐ伸びた茎の頂点近く数段に渡り、王冠リング状にピンクの花を咲かせることから、花言葉は「幸福を重ねる」。耳を澄ませば、立ち並ぶ花たちが声をそろえて「みんなで 今を真っ直ぐに」と最近 仲間からのメールや声に元気づけられることが多い。

「神戸のジャズ ストリートの生ライブに飛び入り参加 カントリー ロードを気分よく歌い みんなで盛り上がったよ。それが You Tube の動画で流れてる。是非 見てくれよ」
「おいおい プロにまじって なにすんねん。ようやるわ」と。

でも カンカン帽かぶって タンバリンもって 気持ちよく歌う姿に こっちも負けてられるか…と。

また、闘病中の仲間 訪ねるのもどうか…と控えている時に「お～い どうしてる」の声 元気な声にほっとする一方 うれしくなる。

「こっちも 久しぶりに 奥播磨千種のたたら見に 原チャリ飛ばしたよ」と。

新聞に掲載されたアスベスト被害者の会活動の写真の奥に仲間の顔が小さく写っている。頑張ってるなあ。

6 月には毎年高校時代の仲間が集まる会 落語の会 高校野球の予選 母校の戦い 闘病の仲間も気になる。

話題は決まって また、かつての時代の話に夢中になり、あとは仲間の闘病をきづかい 介護の事等々

何とはなしに待ち遠しかった 6 月 闘病中の仲間も 無理せず 今を笑顔で

1. 橋本大阪市長の大阪都構想にノーを突きつけた 70 代のパワー まだまだ現役

5月17日の住民投票の結果、大阪市を廃止し、五つの特別区を新設する「大阪都構想」の協定書（制度案）は住民投票の結果、反対が賛成を約1万票ほど上回り 僅差ながら否決され、政令指定都市・大阪の存続が決まった。賛否を決したのは70歳代の投票行動と反対票。投票に行った年寄の多さが賛否を決したといえる。20～60代のほとんどが賛成優勢または拮抗だったというが、70歳以上は反対票が大きく上回ったという。

若い人たちの多いインターネットの書き込みなどの論調を見ると圧倒的に橋本支持

「二重行政 無駄を排する」橋本改革・都構想になんで反対するねん」とする反応が圧倒的である。

でも みんな即物的 同じことしか言えんのか・・・と言うほど その次の中味がない。

どう見ても 聞きかじり ノー天気と年寄には「ほんまに 任しといてええのやろか・・・」と映る。

一方 年寄たちは見ていた。論理とは別に橋本氏の改革行動を・・・

「自分流以外には聞く耳を持たぬ問答無世用の強引・性急な判断とやり方

常に二者択一の勝者の論理 そして 垣間見える身内への甘さ。」

賛成・反対は別にして、年寄は 選択を迫る二者択一の怖さ そして 明日は我が身の経験を知っている。

都構想・二重行政解消の改革が負けたというより、橋下市長の行動判断の強引さと安心できる改革への

不安感が年寄に渦巻いた結果だとみる。「賛否ではない。このまま突き進むと危ない」と。

それは 70歳以上 年寄の経験・皮膚感覚だろう。年寄誰しもが持つ自分の感が働いた。

年寄パワー炸裂 年寄が数多く投票に出かけ、即物的なスピード行政に待ったをかけた。

70歳代 まだまだ現役 カもある。大阪の年寄に元気を貰った。

くすぶってばかりは いられないと。

これからの大阪 どんな改革が始まるのか？ そっちの行動と手腕の主役は文字通り若者たちだ。

大阪の年寄たちに 年寄の生き方 こんな社会参画もできるのだと・・・。

大阪都構想の住民投票の結果を聞いて 2015.5.17. 夜

2. 神戸 好奇心いっぱい爽快な時節を楽しむ

● 神戸の春のカーニバル神戸祭 ジャズ ストリート ライブを楽しむ 2015.5.17.



● **田園一杯に広がるレンゲ畑** 西播磨佐用町三河のレンゲ畑 2015. 5. 20.

めっきり見られなくなったレンゲ畑を西播磨佐用町三河の田園で見つけました

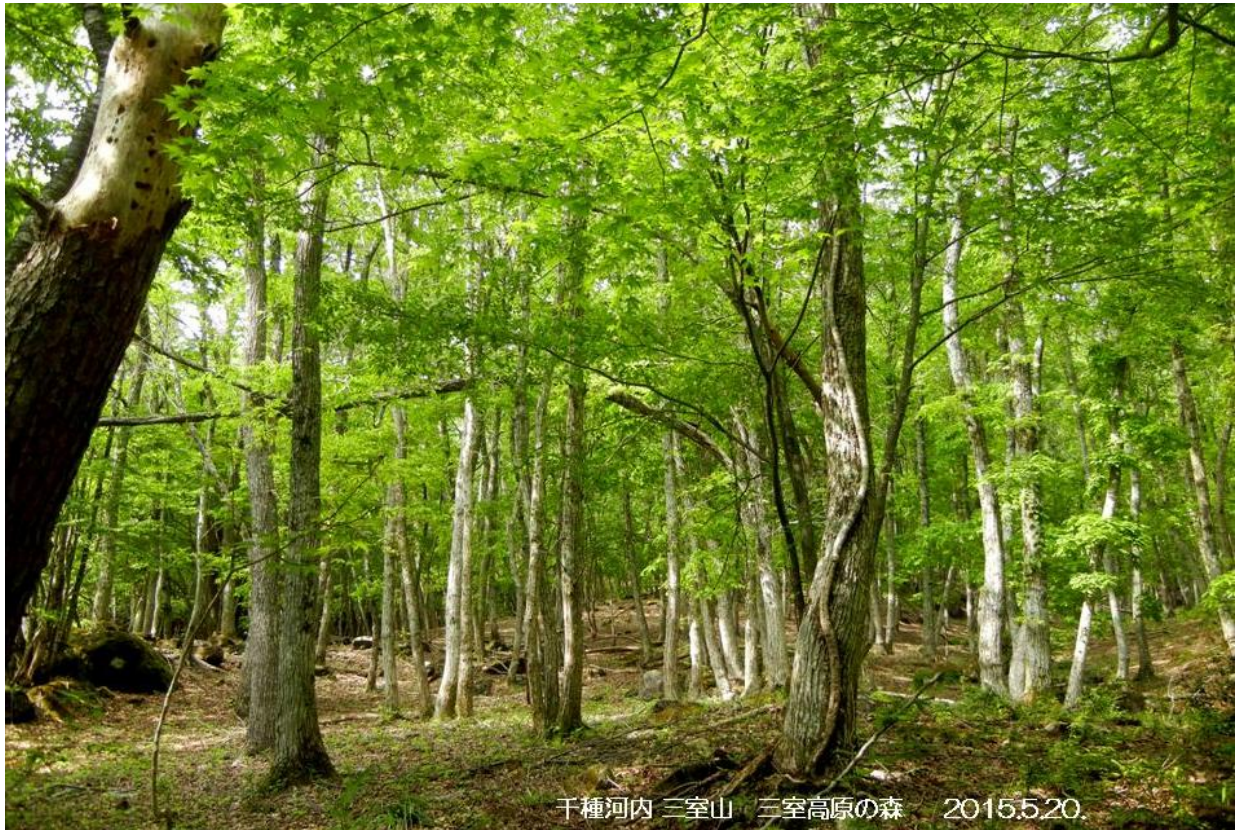


最近は見られなくなったレンゲ畑を佐用と千種の間 三河の郷で見つけました
2015.5.20.

● **こんな明るい新緑の森の中で 一息** 奥播磨 千種町三室高原で 2015. 5. 20.

こんなに明るい緑の林 風がのんびりわたってゆく

傍らに座って ちょっと一服 川のせせらぎ 鳥の声に耳を澄ます



千種河内 三室山 三室高原の森 2015.5.20.

3. 企業に責任を問えない日本 新聞でこんなことを知りました

最近の風潮として、政治家も企業家もトップとしての責任を回避する風潮が目立つ。
何かスピード・グローバルIT化が旗印になって 特に目立っている。
なぜだろうか・・・とと思っていましたが、新聞に掲載された刑法に組織罰を法制化すべきとの記事
に書かれていた企業罰の解説記事を読んで、「こんなことだったんだ」とはっと気付きました。

日本の刑法では組織の刑事責任を問うことはできず、組織事故でも個人の責任を問うしかないという。
福知山線脱線事故について JR 西日本の組織としての「リーダー責任を問う裁判の判決では
「組織として求められる安全対策という点から見れば、JR 西日本の当時の ATS の
設置のあり方などは期待される水準に及ばず、問題があったと言わざるを得ない」
と指摘しながらも、組織の責任者としての社長の責任は問えない」とした。

あれだけの大事故を起こし、数々の組織ぐるみとしての問題がグリヤーになっているにもかかわらず
組織の長としての責任は問えず、また個人としての責任についても立証できずに無罪の判決。
なんと納得がゆかぬ結果であるが、日本の刑法では組織の長の責任は問えない仕組みなんだと
言われると仕方ないのか・・・と。そして はたと思い当たる節がある。

これを逆手に取っての事なのか？

勉強しない社長が「想定外」「予知できなかった」を繰り返す最近の企業家の言動に
「組織罰に問われないことを承知し、企業トップの無責任さを益々増長させているのではないかと」
同じ構図は 政治の世界ではもっと常識化していて、行動ではなく文言で済まされてしまうことが多い。

企業・組織の長たるもの もっと厳しいレベルの高い意識をもって 組織の責任を果たしてもらわねばと思い
つつ、その根底に、日本では「企業責任」そのものを問う仕組みがないことを初めて知りました。
だから いくら社長の責任だといっても馬耳東風 相手には勝負が見えているのだと。

欧米では厳しい企業罰の規定があると聞く。 長い歴史がある刑法であるが、組織罰の規定は必要かとも。
でも、新聞の解説では、私の言う「知らない 予想外」などとの言い逃れは刑事罰以前の組織の長の資質
の問題だという。 それを許す社会に目をむけねば・・・と。

東電問題 原発問題 関電の料金値上げ はたまた 集団自衛権問題に 憲法問題等々
なかなか筋の通った話が聞けない日本。

こんなところにも 組織リーダーの責任や資質に疑問符が付く。

もう 親方日の丸 頂点同調ではやってゆけぬ日本になってしまっている。

「知らない 予想外だった」との一言で切り抜けてしまう姿に何度となく割り切れなさを感じるのですが、
どうでしょうか.....

2015. 5. 31. 企業罰の解説記事を読んでいて
by Mutsu Nakanishi

何とはなしに待ち遠しかった 6 月

梅雨前というのに 真夏のような暑さですが 無理せず 今を笑顔で

2015.6.1. from Kobe by Mutsu Nakanishi